

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500427		
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン		
事業所名	ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	令和5年8月31日	評価結果市町村受理日	令和5年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190500427-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダから臨む犬山城やリビング目の伊木山など四季折々の景観があり、自然に囲まれた解放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスと連携しながら、地域社会との継続的な関係を築いています。グループホーム内での生活は家庭的な空間を提供できるようにしています。また、利用者様それぞれのできる事(調理手伝いや献立の意見を伺う等)、得意な事に着目し、それらを活かした役割を持っていただく事で、できる限り本人らしさを継続した生活を送っていただけるようにしています。新型コロナウイルスが5類相当となったことにより、徐々に地域との関わりを再開しており、買い物の同行や地域清掃の参加等、近隣の感染状況を確認しつつ行える事から行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方より毎年2回行われる市民清掃活動について案内があり、草取りやゴミ拾いなど利用者と一緒に参加して交流している。運営推進会議で利用者のつづやきを拾い上げて利用者の思いが叶えられるように職員間で話し合っており、取り組んだ内容を報告している。計画作成担当者はアセスメントを行い、利用者のつづやきや生活歴、居室担当者の気付きやアイデアを参考にして計画の原案を作成している。原案を他の職員に提示して職員の意見を反映した計画を作成している。カンファレンスに家族や利用者に参加して現状に即した計画を作成している。利用者のつづやきや様子、家族や医療機関のやり取りなど詳細を記録し計画に反映させている。地域に根付いたサービスの提供、地域とのつながりを大切にして利用者交流できるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるように理念を共有し、毎日の支援を行っている。今年度より法人理念も変更された為、全職員へ把握するように声をかけている。	管理者は、新しい理念を職員に浸透させるために会議や日常の会話の中で伝えている。職員間で話し合いながら地域に根付いたサービスの提供、地域とのつながりを大切に利用者と交流できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類相当となり、徐々に地域への活動の参加を再開している。買い物への同行や地域清掃への参加、地域ショッピングモール作品展覧会への出展等を行っている。	地域の方より、毎年2回行われる市民清掃活動について連絡を受けて草取りやゴミ拾いに利用者と一緒に参加している。近隣のスーパーに利用者と一緒に買い物に出掛けて挨拶を交わしている。近隣の住民や家族から野菜をいただいている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1度開催し、事業所の取り組み状況や満足度調査の結果等を報告している。参加者から頂いた助言は共有し、意見を活かした活動を行うように努めている。	地域の代表者や市の職員、家族が参加して事業所の活動状況や現状を報告し話し合っている。利用者のつづやきを拾い上げ取り組んだ内容を報告している。地域の代表者より、外部評価を同じ機関で行うのはどうかと意見が出されて毎回変えている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設事業所である地域包括支援センターとも情報交換しながら、随時相談できる関係を築いている。また、加算要件等で不明な点についても相談、確認を行い、適切な助言をいただいている。	加算要件や分からないことを市の担当者に確認している。要介護認定の区分変更や更新認定の申請書を提出に行った時に情報交換することもある。市主催の作品展への出展の依頼を受けて利用者と一緒に壁飾りを作成して出展している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法人として、行わない指針を掲げている。毎月虐待や身体拘束に関しての委員会を行っており、グレーゾーンの認識も含め、利用者様の安全に努め、身体拘束を行わないケアを実践している。定期的に勉強会も行う事で、振り返る事もできている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。併設の事業所と合同で定期的に委員会や勉強会を行っている。管理者は、職員の声掛けや対応方法など普段の様子を見ながら必要に応じて正しい言葉掛けであったかどうか問い掛けている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアの勉強会を行い、不適切ケアとなる点がないか確認をしている。また、グレーゾーンの部分にも注意し、特にスピーチロックを意識している。	管理者は不定期に不適切なケアに関するチェックシートを職員に行わせて意識付けている。日常の会話の中で虐待や不適切なケアについて話をしている。職員は、不適切なケアを体験する機会を設けて虐待の防止に努めている。	

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度に関する理解を深めながら、併設事業所と協力し、利用者が安心して施設を利用して頂けるように整えている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に職員より不安や疑問点がないかは確認しており、何かあれば随時説明を行っている。それ以外でも日頃から利用者様やご家族にはできる限り密に接するようしており、情報共有等に努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回満足度調査を実施し、ご家族のニーズを伺う機会を設けている。意見内容は共有、検討を行いご家族との信頼関係を築けるよう努めている。満足度調査の内容は運営推進会議時に報告も行っている。	家族の来所時や電話にて利用者の状態を伝えて意向を聞いている。職員は家族への言葉のアプローチを大切にしている。家族より、足の筋力が落ちているようなので運動して欲しいと要望があり運動や散歩に取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回職員アンケートを実施している。職場環境に関して可能な限り改善に努めている。また、個別でも職員との面談を定期的に行い、現状の確認や不安に思っている事等の聞き取りを行い、チーム間で解決できるように努めている。	管理者は会議や日常の業務の中で職員の意見を聞くように心掛けている。職員から業務改善や変更について提案があり、職員と相談しながら取り組んでいる。オンライン会議のためにタブレットを増やしたり、駐車場の問題を改善したり職員の意見を反映している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年度初めに目標を定め、それに対して行動を行えるようにサポートを行っている。定期的に話を聞く時間を設け、改善点などがなければ確認を行うようになっている。	管理者は、家庭の状況を配慮して勤務表を作成している。子育て中の職員は地域や学校の行事がある時は勤務変更をしている。法人から職員に正職員等への雇用形態の変更について打診している。職員の希望に合わせて勤務時間や雇用形態を変更している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標設定シートを元に、勉強会や研修を通してスキルアップに繋がるように努めている。資格取得に対してもバックアップできる環境も整備されている。今年度は介護支援専門員の更新研修1名、実務者研修1名、参加している。	管理者は、研修の情報を提供して参加を促している。職員の力量を把握して学んで欲しい研修への参加を促し学ぶ機会を与えている。雇用形態に関係なく研修会や資格取得のために勤務を調整したり、法人が費用を負担したりしている。	

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員の資質向上のため、事業所以外での勉強会や研修にも参加し、相乗効果となるようにネットワークづくりを行っている。交換研修の受け入れも開始予定。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に作業を行う事で関係づくりを行う事やつぶやきなどを拾い上げ、その方がどうしたいかの意向も随時伺うようにし、共有することで信頼関係を築くように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントなどを行うことでその方の情報を整理し、つぶやき等も拾うことで暮らしの希望や意向等を確認し、できる限りサービスの提供を行えるように努めている。	食事中的会話や雑談の中から利用者のつぶやきを拾い上げて記録し、職員間で話し合っ て思いが叶えられるように取り組んでいる。 困難な場合は家族から情報を得ている。利用者に問い掛けて表情やしぐさから思いを把握している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が自立した日常生活を営めるように、また本人にとって心地良い生活が送れるように職員で検討している。アセスメントから現状に即した支援を見出し、介護計画に反映させている。	計画作成担当者がアセスメントを行い、利用者のつぶやきや生活歴を参考にし、居室担当者の気付きを取り入れて計画の原案を作成している。原案を他の職員に提示して意見を聞いている。カンファレンスに家族と利用者が参加して現状に即した計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態変化や、普段と違う行動等あれば、随時職員間で相談を行い、対応を行えるようにし、効果の高いものは介護計画の見直しに活かしている。	利用者のつぶやきや様子、家族とのやり取りなど詳細を記録している。職員間で話し合い利用者や家族の思いが叶えられるように取り組んでいる。介護計画の課題(ニーズ)に利用者や家族の言葉で記入し、毎日評価して計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族のニーズに合わせて相談、検討を行い、できる限り支援をしている。介護職のみで対応に悩む事があれば、併設事業所にも声をかけ、アイデア等の協力依頼を行うよう努めている。	家族の都合が悪い場合は、職員がかかりつけ医の受診に同行し結果を家族に伝えている。ハンドクリームや下着など利用者が欲しいものを買いに近くのショッピングセンターに職員と一緒に出掛けている。	

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の今までの暮らしについてわかる範囲で情報を整理し、それらを考慮した上で町内行事や地域清掃への参加など、地域への活動参加を行うよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状では往診対応を行っていただいている方が7名。受診対応が2名の状態。往診、受診ともに診察内容はご家族と共有できるようにしている。何かあれば随時主治医にも相談を行っており、関係性を築けられるようにしている。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は普段の様子が分かる記録を印刷して渡して結果を確認している。分からないことは職員から医師に確認したり、次回の受診時に文章で依頼したりして回答を得ている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ハウスマネージャーを中心に医療機関と連絡を行い、調整を図っている。長期入院となり、一旦GHを退所となるケースでも地域事業所と連携を図りながら、退院時の受け入れ態勢を可能な限り行えるように整えている。	入院時は、利用者の情報を提供している。入院の様子を家族や医療機関に確認している。退院の連絡があった場合は医療機関と情報交換して、臨機応変に受け入れ態勢を整えている。退院について、家族と相談しながら出来る限り意向に添えるように取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームでは重度化させず、看取り対応は行っていない事を入居前に説明し、理解を得た上でサービスを利用していただいている。状態変化等があれば併設している特養への住み替え等を視野に入れつつ、その方その方に合った場所を提供できるように努めている。	契約時に事業所の方針を家族に伝えて承諾を得ている。利用者の状態の変化に伴い早い段階から家族と相談して意向を確認している。家族の意向を大切に丁寧な説明し次の住まいについて支援している。家族の思いを受け止めて事業所として最大限の支援が出来るように取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や事故に関するマニュアルあり。事故発生記録は会議で見直し、原因を追究していくことで事故予防となるように努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に防災・防犯訓練を行い、非常事態に対する意識付けを行っている。BCPを併設事業所と協力して作成し、見直し等もしているが、まだ詳細は決まっていない。	併設事業所と合同で訓練を行ったり、夜間を想定した訓練を行ったりしている。水害時の垂直避難や緊急連絡など様々な訓練を行っている。併設の事業所に水や食糧、衛生用品など備蓄している。運営推進会議で訓練への協力をお願いしているが協力が得られていない。	今後も地域住民の協力が得られるように継続的な取り組みを期待する。

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、人格に合わせた声かけを行っている。特にトイレや入浴時等には注意して対応を行っている。	トイレに誘導する時は他の利用者に分からないように声を掛けている。入浴の時に同性介助を望まれる場合は同性介助している。職員は利用者の性格を把握し利用者に合わせて対応を心掛けているが、居室の扉に小窓があり居室内が見えるようになっている。	利用者の中で人影や廊下の照明が気になる方には小窓に目張りしているが、利用者の立場になってプライバシーを確保できるような話し合いを期待する。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をしやすい場面づくりを心掛けている。また、日常会話やつぶやき等を通して、思いや希望を確認し、共有している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の生活スペースを把握し、介護計画に落とし込みながらできる限り今までの生活スタイルを継続できるように支援をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた献立を用意したり、誕生日には本人の希望を確認し、提供するようにしている。食事の準備や片付けもその方その方に合わせた事を行っていただけるように声をおかけしている。	近隣のスーパーに利用者と一緒に食材を買いに出掛けている。さんまや栗ご飯、流しそうめん、スイカ割りなど季節に合わせた献立としている。散らし寿司やロールキャベツなど利用者が食べたい物を出している。利用者は、野菜の下処理や朴葉寿司作りなど出来ることを手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの特性(嗜好やペース)を把握し、提供している。状態に応じて本人や家族に相談しながら、状態にあわせた食事(量や栄養補助食品)の調整を行っている。毎月栄養士に助言を頂く機会もある。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、声かけや見守り、介助をしている。義歯は週に2回消毒を行っている。必要に応じて歯科受診等、適切な対応をご家族にも協力していただいている。	歯磨きが出来の方は各居室で行っている。見守りや付き添いが必要な利用者には職員が付き添っている。歯科医師が往診した時に口腔ケアのアドバイスを書面で受けて職員に周知している。義歯は定期的に職員が消毒している。	

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄をすることができるように支援している。また、そわそわされていたり、自席から立ち上がられるなど、排泄の兆候と思われる行動は見逃さないようにもしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴を基本とし、一人ひとりの希望や拘りに可能な限り応じている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活スタイルに合わせた就寝時間、明るさ調整を行い、心地よく休めるよう努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を理解、共有し、服用後の身体の変化を見逃さないようにしている。服薬時はマニュアルに沿って提供を行うようにしている。	薬の変更がある場合は、記録に赤字で記入し分かりやすいように工夫している。誤薬がないように名前やタイミングなど他の職員に声を掛けてから行っている。服薬を介助する時は利用者に名前を確認している。薬が多い方にはカップに入れるなど手渡し方法を工夫している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を活かせるようにお手伝いしていただいている。調理手伝いや生け花、清掃活動、プランターの管理などできる事に目を向けるようにしている。	習慣お好み調査シートで利用者の得意なこと、好きなことを把握し調理の手伝いや家庭菜園、生け花などを楽しんでいる。裁縫が得意な方にはやぶれた座布団を縫ってもらっている。町内の世話役をしていた方には食事の挨拶をしていただくなど役割を持った生活が送れるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への同行をできる方はしていただいている。それ以外の外出に関してはコロナの状況を見ながら少しずつ行えることから行う予定としている。	居室から中庭に自由に入出入り出来るため職員と一緒に掛けている。天気の良い日には利用者と一緒に散歩や買い物に出掛けている。併設事業所の送迎車を借りて桜やあじさいを見に近くの公園まで出掛けている。家族の協力を得て外食や墓参りに出掛ける方もいる。	

グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小遣いの取り扱いについて利用者に説明を行い、同意を得た上で財布を金庫で保管し、希望された時に使用できるように支援している。小遣い帳(記録)をもとに、毎月の収支報告を行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3か月に一度ご家族へ発送している新聞に利用者様から一言コメントを書いていただくようにしている。電話も利用者様からかけることはないが、ご家族からの電話があった場合には利用者様に代わり、お話しをしていただくこともある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように花を生けたり、利用者様達に作成していただいた季節の作品を掲示している。食後には床掃き等を行い清潔感も保つように努めている。	廊下に利用者の写真をフォトフレームに入れて飾り、会話のキッカケとなっている。花の好きな利用者が玄関やリビングに季節の花を生けて飾っている。塗り絵の好きな利用者から飾って欲しいと要望があり飾っている。職員は毎食後換気を行い、温度や湿度を調整して快適に過ごせるように配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や利用者様同士の相性を踏まえ食事席の配置を行っている。共有スペースにおいては個別のテーブル等がなく、一人のスペースの確保ができていないため、その点は現在の課題となっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面台、天袋、エアコンが備わっている。今までの生活から本人に必要なと思われるものの持ち運びは依頼しており、使い慣れた物を使用できるよう環境整備は意識している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には手すりが設置されており、一人ひとりの特性を踏まえて、安全かつ動き易さを考えて家具を設置している。身体状況に応じて家族に相談しながら、履物の見直しや動線の確認をしている。		